

令和2年度 学校評価書 (1学期終了段階での評価)

東近江市立能登川北小学校

令和 2年 7月 3日作成

<本年度の重点目標>

- 学ぶ力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A = 優れている (優れている状況にある ・ 数値基準 90%以上)
- B = 良い (良い状況にある ・ 数値基準 80%以上)
- C = おおむね満足 (課題はあるがおおむね満足できる状況にある ・ 数値基準 70%以上)
- D = 要改善 (課題が多く速やかな改善が必要な状況にある ・ 数値基準 70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○「先生よりも先に挨拶ができる」という声かけを続けたことにより、年々自分から挨拶をする子が増えている。少しでも良くなったことや成長を子ども自身が自覚できるように、その時、その場で認めたり褒めたりすることを継続していきたい。
 ○自分で考える場・自分達で何かを生み出す機会を増やしたことが、より良い北小づくりにつながることを子ども達実感しているように感じている。
 ○目標設定を明確にすることにより、意識しながら進めることができたと感じた。
 ○「学習指導にかかわること」については、ある一定の成果を得られていると評価できる。保護者や児童からの回答では高い数値を得られているし、自分自身でも、力を注いでいると思っている。しかし、現状に満足せずに、子どもたちにとってよりよい授業を追究し続けたい。
 ○「特別活動にかかわること」については、まだまだ改善の余地があると、反省しなければいけない。子どもたちが社会に出てから通用する力を身に付けるために、「自分たちでやり遂げる体験」を何度も積み重ねられるよう、環境づくりに努めたい。
 ○全校の子ども達が仲良く交流できていること、下学年の子どもにとっても優しく接したり、同学年の友だちへの配慮ある声かけ等が大変素晴らしいと思う。しかし、6年生までにつけたい力、中学校進学後に必要な力などを全職員で見直し、①より個別に必要な学力をつける②嫌なことや困ったことについて、互いの考えや思いを伝えられる友だち関係づくり③子どもなので、失敗や思うとおりにいかず泣いたりへこんだりして当然、ただし、その後どうするかが大事だと考えている。レジリエンス(回復力・弾力性、適応力)を身に付けさせたい。

項	評価項目	成果目標・取組指標	自己評価	自校の改善方策
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「4つのあ」について知っている保護者を80%以上にする。	B	①学校生活でのきまりや規則を指導する際には、必ず北小の合言葉「4つのあ」を意識できるよう声かけを続けている。道徳などで、あいさつの話題になった時には、児童自ら「4つのあ」ということばが出てきた。しかし、保護者アンケートの結果から分かるように、北小の取り組みを「分からない」と答えた保護者も多く、特に低学年の保護者には今後も引き続き学校から発信していく必要があると感じる。 ②カリキュラムの検討は総合は行えたが、他教科については今年度のコロナの関係で十分な見直しができている。6年間を見直す中で、今担当している学年では何の力をしっかりつけておくかその明確な目標が必要であると考え。
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年度2回以上園・小・中の異学年交流活動による地域等を題材にした学習の場を設定する。	B	
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・1年15分、2年20分、3年30分、4年40分、5・6年60分の家庭学習の指導を続け、家庭学習の習慣が身に付いたと答える保護者の割合を80%以上にする。	B	③家庭学習の習慣化を図るためには、今一度、各学年の家庭学習の内容や指導方法等を確認し合い、共通理解した上で取り組むことが大切だと思う。 ③保護者アンケートで、弱みとなっている読書、家庭学習の習慣化や自主学習についてどうするかなど学力向上部会で相談しているが、学校としての方向性をしっかりもてるとよい。家庭での本を読む活動の奨励も進めていけるとよい。 ④学習指導で、学びのスタンダード、学びの姿勢、鉛筆の持ち方、筆箱の中身、鉛筆の本数、友だち同士の呼び方、体育館シューズの履き替え方など、声かけをしているが、全体の場で向き合って話をする場をつくり、指導を徹底していく。 ④自分たちで時計を見ながら意識して取り組める子が増えるとよい。授業の間の五分休みのとらえ方がまちまちである。次の授業の準備をすることを徹底させていきたい。掃除の時とかも、黙って掃除が十分できていない子もいる。 ⑤学校図書館の活用の数値は高いにもかかわらず、子どもたちや保護者のアンケートの結果は落ちてしまっている。進んで読書をしている子は、家に帰って他のメディアに勝てず読書量が落ちているのではないかと。 ⑥外国語教育で、ギャビン先生と打ち合わせをしていくことで、ALTと担任との連携を大切にしていこう。今は教材の面白さに向いているが、書く活動にも楽しくできるような指導の工夫を行う。
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ベル着、学習のあいさつ、声のものさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかり聞く児童の割合を90%以上にする。	C	
	⑤ 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、年間一人50冊以上読めるようにする。 ・図書だよりなどにより親子読書呼びかけ。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バッグなど)読書する本を常備させる。	A	
	⑥ 英語教育(外国語活動)の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	B	
	⑦ コミュニケーション能力の育成	・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。	B	
(3) 道徳教育	⑧ 道徳教育の充実	・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	C	⑧道徳の授業というのも難しい。公開授業を昨年度したが、いろいろな答えがあるので、その子なりのとらえがある。教材研究をする必要がある。道徳の授業公開をしていく。 ⑨あいさつについて、できているような気もするが、できていない数値も出ている。委員会でも2学期取り組む。教師も、あいさつをしなさいという指導だけではなく、自分からあいさつできる子を褒めるなど、自主的に取り組めるようになる指導をしていく。
	⑨ あいさつの充実	・家の人や近所の人、友達などに自分からあいさつできる児童の割合を80%以上にする。	B	
(4) 特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実	・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。	B	⑩今年度は、何をねらいにして取り組むのか、必要な行事かを精選して計画できていると思う。今年度は、新型コロナウイルスの影響で特に精選が求められている。今後も教科指導と学校行事をつまやくリンクしながら進めていきたい。 ⑪係活動、委員会活動について、少しずつ主体性が出てきてはいるものの、まだまだ受け身の姿勢で取り組んでいる児童が目立つ。「自分たちが動き出せば、現状を変えることができる」という成功体験を積み重ね、より大きなプロジェクトに取り組めるようにアプローチしていきたい。 ⑪子どもたちの民主的な活動、自治的な活動を仕組む上で係活動は大変有効である。ただ、マンネリ化しないための活動のPDCAサイクルを体験的に学ばせるシステムを作りたいたい。 ⑪掃除は全校がまじめに取り組める、そこへ人間関係づくりを入れた縦割り掃除を計画的に導入し、年間通して行える活動にしたい。また、地域の保護者やボランティアも含めた地域連携型の清掃活動も考えていきたい。
	⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実	・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。 ・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B	
	⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実	・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B	

(5) 人権教育	13	人権尊重の精神と実践的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) 友達のよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など) 教室に掲示する児童の作品は、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。 	B	<p>13 人権教育に関して、人権週間のみに集中しているのは事実。人権週間は総まとめとして位置づけていけばよい。各学校の実践も参考に、2学期日常的に取り組めるものを提案していきたい。</p> <p>13 人権にかかわる取り組みについて、日ごろは意識できずに、12月の人権週間にだけ力を入れる悪い癖がある。学級通信で、子どものよかったところ等を紹介するように、意識したい。</p>
	14	保護者・地域と連携した人権教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 人権にかかわる取組について、学年日よりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 年1回、人権にかかわる授業を公開する。 	C	<p>14 毎日の授業の中で、一人ひとりが認め合える雰囲気を作っていくことが必要である。</p> <p>14 学級通信で子どもたちのよさや頑張りを積極的に公開する</p>
(6) 環境教育	15	共生を目指す環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境にかかわる体験活動を各学年3回以上実施する。 	C	<p>15 今学期は、体験活動が実施できていないし、年間計画の中にも、位置づけられていない現状がある。年間計画を見直し、環境にかかわる体験活動を3回以上位置づけたい。</p>
(7) 国際理解教育	16	多文化社会に生きる国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。 	B	<p>16 外国語以外にもギャビン先生と一緒に学習を柔軟に考え、交流を増やす。</p> <p>16 将来的には、ネットを活用して習った英語が使えるような環境作りができればと思う。実際に英語を使うことにより、自信につながっていく。</p>
(8) 生徒指導	17	いじめを許さない集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 いじめ防止に関わる児童集会を年1回以上設定する。 	A	<p>17 中学年はとくに、ルールがあいまいになってくる時期でもあると思うので、教師も「見過ごさない」という意識で、アンテナをはる必要がある。</p> <p>17 係活動を活発にし、自分の力が学級の力になっていると実感できるようにする。また、自分たちでよりよい学級を創っていくという意識を育てる。何でも「先生〜していいですか?」と聞く癖があるので、「先生に聞くんじゃない。みんなが納得するようにみんなで決めな」と話すようにしている。</p> <p>17 いじめアンケートを毎学期実施する体制を構築したい。教師も、些細な変化でも見逃さず、組織で対応できる体制をつくるために、子どもの様子を放課後等職員室で話題にできる雰囲気をつくってきたい。</p> <p>17 18 児童の少しの変化に気づき、保護者と連絡を取り合いながら集団づくりを継続していく必要がある。</p> <p>18 教育相談週間だけでなく、普段から気になる子へのアプローチや複数教員での対応、専門機関との連携、保護者との連携を丁寧に行っていく必要がある。</p>
	18	学校不応児童生徒へのきめ細かな対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。 	A	
(9) 進路指導	19	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(年2回) 	C	<p>19 今年度から始まったキャリアパスポートを、活用しきれていない現状がある。キャリアパスポートの意義を十分に知った上で、教育活動を展開したい。</p> <p>19 自分の良さを感じられる場の設定を行う。</p>
(10) 特別支援教育	20	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 必要に応じて支援体制づくりを行う。 学期1回以上の特支推進委員会を実施する。 	A	<p>20 定期的にケース会議を行い、学校でできる支援や対応策を考えることで、多角的な視点でその子を見ることができると考える。</p>
	21	個別の教育支援計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育支援計画を活用する。 各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。 	B	<p>21 支援の必要な児童に関して、保護者と連絡を密にとり、連携を図ることが大切である。</p>
(11) 保健安全教育	22	安全教育の充実と安全管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月1回防犯ブザーの点検を実施する。 児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。 	B	<p>22 危険な場面を取り上げて自分たちの生活の仕方を振り返ったり話し合ったりする場面をつくる。(学級→代表委員会、委員会・クラブ、職員会での共通理解)</p> <p>22 今年度に関しては、新型コロナウイルス予防の指導が主であるが、核となるのは何のために予防するのか、行動をする必要があるのかを発達段階に応じて丁寧に指導を継続することだと考える。子どもたちが自分たちで自分の命や健康を守る判断力や行動力をつけていきたい。</p>
	23	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。 	B	<p>23 「早寝、早起き、朝ごはん」についてなぜ大切なのか考えさせ、行動していけるよう指導する。</p> <p>23 早寝・早起き・朝ごはんはPTAと連携したりして、全校的に啓蒙活動をするのが望ましい。</p>
(12) 研究・研修	24	教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成) 常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究7回実施) 	B	<p>24 1回目の6年生の研究授業は大変明確な視点があり、学ぶことが多々あった。この授業視点を各担任が普段の授業に生かせるようにすることが大切で、結果として学ぶ力の向上につながると考える。</p> <p>25 子どもへの防災教育も、自分自身の危機管理意識も、不十分な現状がある。子どもたちには、避難訓練の時だけでなく、日ごろから「自分の命は自分で守ること」を意識付けたい。また、低学年の子どもを守る余裕があるようなら、低学年の身も案じるよう、指導したい。自分自身は、常に最悪の状況を想定しながら、早期対応を心掛けたい。</p>
	25	教職員の危機意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止研修(5回)人権教育研修(4回)危機管理研修実施。 危機管理マニュアルの周知。 シェイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。 	C	
(13) 地域との連携	26	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 	B	<p>26 行事や学習参観、学習サポーター等で、多くの保護者や地域の方々にお世話になり、本校の教育活動の充実にご貢献していただいた。これだけたくさんの協力をさせていただけるということは、地域の方々が学校に対して大きな期待を寄せておられるからであろう。その期待に応えるためにも、日々の教育実践、特に、1時間1時間の授業を大切にしていきたい。</p> <p>26 気になる子について、保護者に学校での様子を伝えるときにも、お家での様子や困り感も聞き取ることで、保護者の不安感を少しでも取り除くことができると考える。</p>
	27	ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。 	A	<p>26 くりみの時間を活用し、地域のことについて学ぶ機会はあるものの、まだまだ地域のリソースを活用しきれていない現状がある。地域の方をゲストティーチャーとして招くような学習計画を立て、郷土に対する知識、愛情を育む教育活動を展開したい。</p>
(14) 施設・設備	28	施設・整備の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。 	B	<p>28 施設の管理や整備に対する意識が低いと反省。子ども達が怪我する前に、事故が起こることを予測して点検や整備をするよう心がける。</p> <p>28 老朽化の進む校舎のため、危険箇所がたくさんある。随時教委へ報告し、早急な修繕に努める必要がある。</p>
	29	学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。 	B	
(15) その他	30	幼児児童生徒の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。 	A	<p>30 楽しい学校生活は大切ではあるが、その楽しさの内容、実質を吟味したい。</p> <p>30 児童自ら考えた目標設定をし、スモールステップを繰り返して、成就感を感じ取らせることが必要である。</p>
	31	保護者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。 	B	<p>31 保護者の満足度は、子どもの満足度に比例すると考える。子どもが学校が楽しいと思える仕組み方を教職員全員で工夫し実践していく必要がある。</p>